

「これは破壊であって解放ではない」

米主導の連合軍が ISIS 包囲下のラッカ市民の命を容赦せず

【訳者注】これはシリアのラッカでの話だが、もう一つ、イラクのモスルの話と読み比べていただきたい。<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/170723.pdf>
<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/170729.pdf> 同じ者の手によって、同じことが、同じやり方で行われていることがわかるだろう。彼らは ISIS を討伐すると称して実はひそかに逃し、市民を包囲して全滅させている。同じ記者が報告しているのでは、あきらかにならないことに注目すべきである。

RT (Russia Today)

September 1, 2017



<https://on.rt.com/8lxo>

ISIS に支配されたラッカ市内での、ほとんどの市民の死者は、アメリカ主導連合軍の作戦によるものだ——と、ある地方ジャーナリストは RT に伝え、荒廃した都市内部の、これまで見たことのない様子を見せてくれたが、そこでは国連によると、住民たちが“受け容れることのできない”代価を払っている。

シリア民主軍（SDF、反政府軍）は、昨年 11 月、米主導連合軍の支援を受けて、ラッカ地域へ侵攻した。6 月に、戦闘はこの ISIS に包囲された街、事実上、自ら宣言したテロリスト・カリフ国へと進んだ。

水曜日に発表された国連の推計によれば、約 2 万 5,000 の市民が、いまだにラッカに囚われの身となっており、進行中の戦いの両側からの砲火によって、殺されている。国連は、ラッカでは毎日、27 人の市民が死んでいると推計している。

しかし、約 1,000 人の武装した ISIS 軍が街の中に存在するにもかかわらず、市街で市民の死者が出るのは、ほとんどがアメリカ主導の爆撃によるものだ、と地方メディア活動家 Musal al Khalafa は RT に語った。

関連資料：「シリアの反乱軍離脱者が、アメリカに訓練された彼の部隊は ISIS に兵器を売っていると証言」 <https://www.rt.com/news/401672-syria-rebel-isis-us-weapons/>

「いまラッカで起こっているのは、破壊であって解放ではまったくくない」と Khalafa は言った。「2,000 人以上の人々が、これまで、ラッカ市民への米主導連合軍の爆撃と、SDF の砲撃によって殺されている。」

噂は確認しにくいものの、国連人権高等弁務官 Zeid Ra'ad al-Hussein は、彼の事務所は 8 月だけで、6 回の空と地上からの作戦で、151 人の市民の死者が報告されていることが確認できたと言っている。

「今月の市民の死者の非常に高い数字と、ラッカの空爆の激しさと、そこへ ISIS が市民を人間の盾として使っていることを考えると、私は、常に保護されるべき市民が、受け入れられない代価を支払っていること、そして、ISIS との戦いに巻き込まれた軍隊たちが、戦いの究極の目標を見失っていることを、深く憂慮するものです」と、Zeid は木曜日、声明を出した。

関連資料：「“市民にとって受け入れられない代価”：国連いわく、米主導の連合軍空爆は国際法違反の可能性」 <https://www.rt.com/news/401609-raqqa-coalition-airstrikes-un/>

84 日間の SDF のラッカ解放作戦を説明しながら、Khalafa は、「そこで起こったことは、すでに ISIS から苦しんでいた、市民、女、子供、老人や病人——その者たちだけが包囲されたことだ」と語った。

この活動家記者は、米主導のジェット機が、無差別に市民と難民を爆撃し、時には隠れ家にいる 30 から 50 人の人々を標的にしたが、これはその市民たちを、正当な敵である ISIS と（故意に）誤認したものだと言った。

関連資料：「ISIS による虐殺と連合軍の空爆：国連は、日に住民 27 人が殺されていると推計」 <https://www.rt.com/news/401516-isis-coalition-kill-raqqa-civilians/>

ハラファ記者は、多くの家族が、水を汲みにいったユーフラテス川近くで殺されたと言った。また、米主導の連合軍が、逃げる手段であった橋を爆破したときにも、多くが殺されたと言った。

「これは実は、市民が街を離れるのを妨げているのであって、ISIS ではない。なぜなら ISIS 兵たちは、いつでも街を離れて逃げることができるからだ——SDF や連合軍の支配している地域からでも」と、記者は RT に言った。

「こんなやり方を解放と呼ぶ者はいない」と彼は強調した。「街には電気も水道もない、パンなどの食糧もない。彼らはパン工場を破壊したのだ。ラッカで市民のために役立っていた国立病院も、アルサラム病院も、米連合軍によって攻撃され、完全に破壊されてしまった。ISIS のために 2 つか 3 つの病院が残っているだけだ。」

8 月 1 日と 29 日の間に、連合軍はラッカの市内とその近くに、1,094 回の爆撃を行ったが、これは前月の 645 回を上回るものだ、と国連は木曜日、連合軍の数字を引きながら言った。7 月にはシリア全土で、総計 885 回の空爆が連合軍によって行われた。

市内の ISIS 陣地への、SDF による地上の包囲は、フランス、イギリス、および米軍から援護を受けた。しかしハラファ記者の情報十分な査定によれば、地上軍と空軍の援護は、多少あったとしても、ほとんど役に立たないものだった。

関連資料：「シリアの反 ISIS 最終戦では、ロシアとの“路線合意”があった——米将軍」 <https://www.rt.com/usa/401650-townsend-isis-russia-convoy-baghdadi/>

「米主導の連合軍は、ISIS の隊員や集合場所を攻撃するつもりはなかった。ISIS の場所は誰でも知っているのだから、それは明らかだ」と記者は言った。「アメリカのジェット機は、SDF が地上を進んでいるときにはビルを攻撃している。しかし夜になると ISIS が、前に SDF に支配されていた同じ地域を、自殺車両を使って再び取り戻すのだ。」

「彼らが ISIS との直接対決を口にするときには、彼らはウソをついている。そこに武力衝突はないのだ」と、この活動家記者は RT に話した。

——以上